

# 快適な暮らしを彩る 古色木目天然染料

ヤブ原産業(株) 販売営業部 小牧 道臣

## 1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、東京オリンピックの開催延期が決定した。開会式が予定されていたのは、昨年11月に完成した新国立競技場。そこには、日本の建築における最新技術が結集されている。中でも特徴的であるのは、建物内のラウンジやテラス、展示空間の壁や天井、そしてスタジアムの外周の底に使用されたスギやマツなどの木材である。

木材は強度、加工のしやすさ、調湿効果等の性質を有し、住まいにおいては、その温もりや安らぎを居住者が感じる事が出来る自然素材。近年、木材の持つ良さが見直され、公共物件や一般住宅などで使用されるケースが増えてきている。古色木目天然染料『久米蔵』は、木材の機能を最大限生かしつつ、新たな魅力を生み出す事が出来る木部用染料である。

## 2. 製品紹介

古色木目天然染料『久米蔵』は、ホルムアルデヒドはもとより人体に影響の無い、人に優しい自然素材を原料として、それを熟成させて製造している。環境に優しい水性タイプで木材内部に深く浸透して、木材本来の調湿機能を活かした木材用浸透性染料である。有害化学物質の吸着や抗菌作用にも優れた効果があり、防腐、防虫、吸水抑制効果を有すると同時に、木の呼吸を妨げることなく木材本来の性質を活かすことが可能である。

意匠の面においては、塗料では表現することが難しい豊かな木目の表情を作り出すことができ、木の魅力を引き出し自然な発色で古材特有の趣を演出する。さらに魅力を引き出すために通常2倍希釈したものを使用するが、3～5倍に希釈した久米蔵を、塗り重ねることで好みの木目を生かした立体感のある仕上がりになる。また、一液性なので可使時間もなく、そのまま塗布が可能で塗り重ねもできる。



写真1 古色木目天然染料「久米蔵」の仕上がり

油成分は一切含まないので、染料を拭き取ったウエスの自然発火現象の恐れもない。

古色木目天然染料「久米蔵」の施工手順は次の通り。

- ①サンドペーパー（#240～#400）で素地調整を行う
- ②久米蔵を十分攪拌し、水で倍希釈したものを刷毛等で塗装する
- ③半濁きの表面をウエス・スポンジなどで強くすり込む
- ④乾燥後、専用仕上げ材を塗布する（最終養生）

この施工手順のように久米蔵を塗装した後に、半濁きの表面をウエス等で強くすり込む工程によって木目を更に際立たせることができる（写真1）。

## 3. 施工例

古色木目天然染料『久米蔵』は、鷹見泉石記念館に塗装されている（写真2、写真3）。また、東京都葛飾区の登録有形文化財の山本亭にも採用された（写真4）。大正時代末期に建てられた伝統と歴史のある和洋折衷の建築物に、趣深い色が調和し美しい仕上がりになっている。他にも外国人居住の横浜の邸宅内装をはじめ、多数の個人邸に採用されている（写真5）。



写真2 鷹見泉石記念館



写真3 鷹見泉石記念館



写真4 葛飾区山本亭



写真5 横浜市個人邸

## 4. 今後の展望

古色木目天然染料『久米蔵』は、古民家、文化財、寺社仏閣等、日本の伝統・技術を受け継いできた木造建築に採用されることが多い製品である。今後、木材の持つ性能、魅力が見直される中で一般住宅や公共施設においても、自然素材を重視する施主や設計者により、木材は構造体としての木材だけではなく快適な暮らしを創造する材料として、これまで以上にその需要の増加が見込まれる。

いにしえより語り継がれてきた“幻の塗料”と言われる



「久米蔵」荷姿 2kg

『久米蔵』も、伝統的木造建築物だけではなく、一般住宅や公共施設においても木材の魅力を最大限引き出す塗装材として、広くPR活動を続けていきたい。